

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人群馬大学

1 全体評価

群馬大学は、北関東を代表する総合大学として、知の探求、伝承、実証の拠点として、次世代を担う豊かな教養と高度な専門性を持った人材を育成すること、先端的かつ世界水準の学術研究を推進すること、そして、これらを通して地域社会から世界にまで開かれた大学として国際社会に貢献することを基本理念に掲げている。第3期中期目標期間においては、基礎知識に裏打ちされた深い専門性を有し、地域社会での活動及び国際交流活動を積極的に推進できる人材を養成することや、多様な学術領域での独創的な研究を国内外の大学・研究機関と連携して進め、国際的な研究推進・人材育成のネットワークを構築し、研究拠点を形成すること等を目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、学長特別補佐が将来構想プロジェクトチームのリーダーとなり、検討を重ね、「数理データ科学教育研究センター」と「食健康科学教育研究センター」を設置するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 医学物理学分野では、国外機関との共同研究としてウーロンゴン大学との線質の精密測定の研究を開始し、大学院生がウーロンゴン大学に赴き、同大学において超小型半導体検出器の開発支援を行い、重粒子線施設にて炭素線を用いて測定試験を行っているほか、放射線生物学分野では、米国2施設（Massachusetts General Hospital（MGH）/Harvard Medical School及びPrairie View A&M University）、韓国1施設（Yeungnam University）と共同研究を実施して、重粒子線と疑似微小重力の複合影響研究に関する基礎研究を実施し、国際学会で5回、国内学会で3回発表している。（ユニット「重粒子線治療の教育・研究の推進」に関する取組）
- 未来先端研究機構において、多様かつ融合的な研究を加速するため、新たに元素科学研究部門を設置し、その下に元素機能化学研究プログラムを置いており、平成29年12月に「海外ラボラトリーモンペリエ国立高等化学大学院」を設置し、国際的な研究拠点としての体制を整備している。（ユニット「未来先端研究機構における世界水準の研究力の強化」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載12事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 産学金連携等による外部資金比率（共同研究）の上昇

平成28年12月に、次世代自動車産業振興に資する産学官金連携イノベーションの拠点として、次世代モビリティ社会実装研究センターを設置し、組織的な共同研究を展開したことによって10件、69,478千円の共同研究を獲得したり、また、理工学部「カーボンアロイ触媒機能科学共同研究講座」を設置するなど、新たに共同研究を締結できたことから35,316千円の新規獲得につながるなど、前年度と比較し受入金額が1.6倍の約301百万円となっており、平成29年度における外部資金比率が0.3%増加(H28:0.4%→H29:0.7%)している。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに平成28年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されているほか、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について課題がある。

○研究費の不適切な経理

研究費の不適切な経理が確認されていることについては、原因を究明して対策を講じるなど、再発防止に向けた取組が行われているが、引き続き再発防止に向けた積極的な取組を行うことが望まれる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 障害のある学生の海外派遣推進について

次世代のグローバルリーダーの育成を目的に3つのプログラム（特別支援教育における次世代のグローバルリーダー育成プログラム、日韓・次世代の障害者グローバルリーダー育成事業、次世代国際協力リーダー養成のための海外フィールドワークプログラム）を立ち上げ、実施にあたって、派遣先機関と入念な打ち合わせや支援を希望する学生には専門支援者が手話通訳や移動介助者として同行し、事前のオリエンテーションではPCメーカー等の学生支援者を募って支援をするなど平成29年度初めて4名の障害のある学生（聴覚障害2名、肢体不自由2名）が参加している。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 医療人育成・医師適正配置を推進するセンターの設置

群馬地域の医師配置等の適正化や、医師をはじめとする医療人材交流・育成等により地域医療の質と安全の向上に寄与する目的で、「地域医療研究・教育センター」を設置し、群馬県からの委託事業として県内各地域の医療事情の実態調査を実施、分析を実施するなど、医育機関として群馬県と連携した質の高い医療人養成を推進している。

（診療面）

○ インフォームド・コンセント（IC）の充実

ICの質の向上・充実に向けて、患者に対するアンケート調査では95%以上の患者から概ね十分な説明がされ満足しているとの結果を得ており、また、一部の部署（肝胆膵外科）では看護師によるIC時の医師の評価を行うなど、ICに対する意識の向上を図っている。

（運営面）

○ 医療安全体制の強化に向けた取組

医療安全週間（平成29年6月19日～23日）を設けて、医療安全に対するポスター等を展示するとともに、医療事故遺族の思いを直接伺う講演会を開催し334名の職員が参加するなど、教職員の医療安全に対する一層の意識改革に取り組んでいる。